

## 第2回 豊能町小中一貫教育等充実検討委員会 教育環境部会 会議録要旨

- 1 日時：平成27年10月8日(木)午後2時00分から午後3時45分まで
- 2 場所：豊能町立光風台小学校 会議室
- 3 次第
  - 1) あいさつ
  - 2) 「小中一貫教育について」の資料説明
  - 3) 意見交流
  - 4) その他
- 4 出席者：委員18名（代理含）、事務局4名

### 議事

#### 1) あいさつ（会長）

#### 2) 小中一貫教育について

##### （事務局）

小中一貫教育のタイプや施設の再配置例等の資料について説明

##### （委員）

中学生の子どもに聞いたが、体育の時に、短い休み時間で着替えと移動があり、大変である。小中一貫で校舎が分かれば、更に大変になるのではないか。

##### （会長）

限られた時間での移動になるので、校舎のレイアウトをしっかりと考えないとカリキュラムに影響がでることも考えられる。

##### （委員）

先日、母親委員会に参加したが、小中一貫での西地区での学校配置によって給食がどうなるのか聞いてほしいと言われている。現在、小学校と中学校で給食方式が異なっているが、施設一体型になれば、給食についても小学校と同じ、豊能町で調理する給食の検討も併せてしてほしい。

##### （会長）

配置例の（イ）か（ウ）の西地区での一体型パターンで給食施設があれば可能ではないかという意見だと思う。

##### （委員）

光風台小学校でひかり幼稚園の給食を実施するときに、食べる場所や小さい子どもでは味付けやカロリーのこと、給食時の園児の移動などで、大変だった印象がある。幼小中一貫となると給食の調整が大変になると思う。

(委員)

能勢町では小中1校で整備が進んでいるが、西地区の端に施設ができるので東地区の方は色々と思いがあって聞いている。場所をどこにするかは大事だと思う。

(委員)

西地区で一体型なら吉川中学校ぐらいがよいと思うが、小学生が通うなら、子どもは近い所を渡ろうとするので、吉川中学校の前に横断歩道が必要と思う。大きさのギャップがある小学校1年生と中学校3年生が同じ学校にいて危なくないのか。資料の併用型では小学校は1年生から4年生、小学校5・6年生で中1ギャップを解消するとあるが、次は小5ギャップができるのではないか。併用型のメリットがよくわからない。小学校6年生は最上学年になったという自覚や、児童会でも中心になってやる責任感など、大事な時期が奪われてしまわないか。資料に小中一貫教育で期待する4項目があるが、この程度なら小中一貫教育にする意味を感じられない。きめ細かな対応なら小規模校でも可能で、異学年交流は1年生から6年生までの交流で済むと思う。対外的に小中一貫教育を進める理由としては弱い。豊能町だからできるというものが必要と思う。

(会長)

小学校・中学校は規模が小さくてもなかなか超えられない壁が大きい。私が小中一貫教育に期待するのは、小学校と中学校で子どもの見方を少し揃えてほしい。小学校と中学校ではシステムの違いかもしれないが、見方が異なるので小中一貫教育でスムーズになればと思う。ご指摘のとおり、小学校4年生で区切ってしまえば、小学校5・6年生のリーダーシップが消える可能性はある。システムの境目にあるので、どこで区切ってもギャップは出てくる。ただ思春期に入る前後が4年生ぐらいなので、少し長い目で見ることができるのではと思う。不登校は中学校で出やすいので、小中一貫教育でしっかりと見守ってもらえれば、不登校がなくなるかもしれない。

(委員)

一体型では、小学生の時に問題があった場合など、中学生になってあらためて学校に説明することなく、引き継ぎができるという面では良い。規模が大きくなっても先生間の意思疎通はしっかりとしてほしい。

(委員)

東地区では、狭い地域なのに幼稚園と学校で参観日を合わすなど、もう少し連携があってもよいと思う。東地区では、早めに連携できるものは取り組んでもらいたい。何か問題があっても、早く検討ができると思う。

(委員)

一体型になった場合は、給食方法についても検討してもらいたい。

(委員)

中学校給食のご飯は美味しいが、おかわりしたいが足りなくて他のクラスへ取りに行く時間があるので、改善してほしい。

(委員)

先日、視察した学校はランチルームがあったが、ランチルームで小学校高学年にもなれば、トレイにして各自でおかわりができるようにできないか。他の学年との交流もできる。

(委員)

地元の美味しい野菜を使った給食ができる小中一貫校にすれば、町独自の魅力の一つになると思う。

(委員)

箱物のことを先に考えるより、このような学校にしたいというソフトや、豊能町だからできる特色等の検討を先にするべき。豊能町だからあるものや、豊能町だからできるものなどについて時間をかけて深掘りし、様々な立場の方も交えて検討すればよいのではないか。会議資料からは、豊能町はこうしたいというのが見えてこない。

(委員)

私は小中一貫教育の良さがわからない。資料に書いてある事なら小中一貫にしなくてもできる。何が小中一貫教育で良くなるのか。保護者の思いが大事である。より細かな教育をしようと思えば、子どもの人数が少ない方がよい。少人数だと色々とできることがある。統合していくことで、町がどのような学校にしたいのか。もっと話し合いが必要。1つの地域にたくさんの学校があり、いろんな学校の文化がある方が間違いなく良いと思う。

(委員)

人が動く時に概念では動かない。単純に、給食が美味しいとか、学校にいじめがないとか、学校が楽しいと思はないと動かないと思う。

(委員)

保育所の延長保育時間を延ばしてほしい。大阪市内まで時間をかけて通勤しているのに7時で終わると帰って来れない。やむを得ず時短勤務にすると、給料が減り、保護者のキャリアを奪っている。この状態で小学校に上がると土曜に学童保育がない。土曜日にも学童保育を実施し、保育時間も延長してほしい。大阪市内では、夜7時までは学童扱いではなく、「いきいき」(放課後子ども教室)扱いで、6時を超えると危ないので親が迎えに行くことになっている。保育料は本町と大差ないと思うが、「いきいき」は月500円程度。それを聞くと市内へ移ろうかなと思う。学校の空き教室に民間の習字、絵かき、ピア

ノ、公文などの教室があれば、子どもを送迎せずに安心して預けることができる。東ときわ台小学校では、学校が終わった後、体操クラブを体育館でやっているが、そのようなイメージである。

(委員)

空き教室をレンタルすれば、業者からの収入も入ってよいのではないか。退職された先生が、教室のそばで、そのような教室をやってもらえれば、安心で良いと思う。

(委員)

小学校1年生で、ひらがな、カタカナ、漢字を習うが、保育所では教育はできないと言われるが、字の読みや数字を数えるくらいしてもよいのではないか。小学校高学年と就学前の子どもとのふれあいは、あるが、小学校での授業の様子や45分ずっと座っていなければならないようなことも慣らしとして教えれば良いと思う。統合してクラス替えができるようになれば、好きな先生にもめぐり会える機会も増えて、子どもには良いと思う。1クラスだとクラス対抗の取り組みができない。競争心をあおるわけではないが、社会に出れば競争しないとイケないので、誰かと競うことは大事だと思う。

(会長)

本日は教育環境部会なので、施設のことが前提となっている。そこで、施設に係る魅力あるソフトをしっかりと考えないといけないという意見であった。また、統合あるいは小中一貫にする時のスケールメリットと小規模のメリットの両方を実現できればよい。それと、給食を充実させること。それらを踏まえて豊能町ならではの魅力をしっかりと出せばよい。新設のオープンスペースの学校ではランチルームを設けている所がある。そこで小学校1年生は手伝ってもらっているが、小学生と中学生と一緒に食べている事例はある。「食べる」「学ぶ」「友達と関わる」の3つがしっかりと協議できるような学校ができればと思う。子どもや親から見ても魅力があり安心できることを小中一貫の全面に出していければと思う。また、子育て時間が長いとデメリットが出てくる。施設が端にあれば移動時間を要するが、なるべく無駄な時間をなくすことでは、どこまでできるのか。例えば中学校のクラブを合同でする場合に、合同でするメリットと移動時間のデメリットについて、どれくらい創意工夫で克服できるのか考えないといけない。週に1回程度の合同練習なら早く取り組めるかもしれない。建物先行ではなくて、理念あるいは目的先行で施設ができればと思う。習い事や買い物なども集まるコンパクト化によって施設が効率よく使えることについても考えないといけない。例えば、学校とコミュニティセンターが併設されている所もある。そうすれば、塾とかに行かなくても、コミュニティセンターが大人も子どももピアノを習っているような場所になればいいかもしれない。図書館とこども園が隣接し、行き来しているケースもある。幼児、小学生、中学生の子どもに主体的に近くにある資源をどう活用するのか考えてもらう。その機会を用意することは大事だと思う。そのような理念を出していただいで進めていきたいと思う。

以上で意見交流を終わります。

2) その他

(今後の予定)

・第3回教育環境部会 11月24日(火)2時30分～ 豊能町役場 本庁